

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご了承くださいませようお願いいたします。

FF14 備忘ログ(PATCH2.0) メインクエスト編



共通メインクエスト その10

かすかな灯火 ～ カストルム・セントリからの救出

かすかな灯火

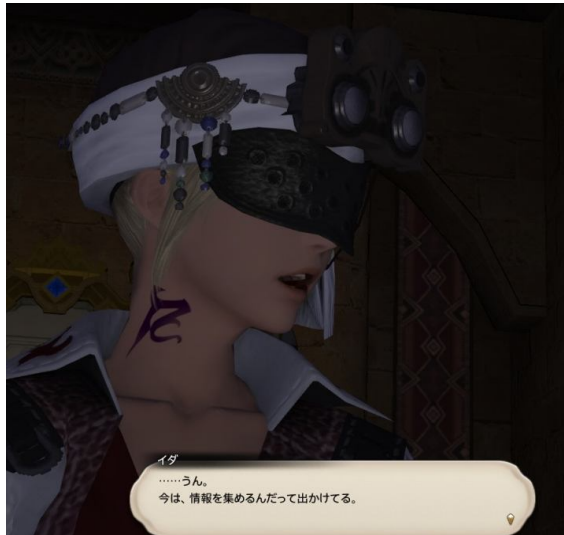
アルフィノ： さて、「ベスパーベイ」の「砂の家」へ……。『暁の血盟』本部へ向かおう。
「砂の家」の惨状は話に聞いているが、そのままにしておくわけにもいくまい。犠牲となった仲間たちを弔い、我々も少し休もう。
……あの場所から、もう一度「暁」に明かりを灯すのだからな。

シド： 想像していたより、ずっとひどいな……。クソ……あの石頭のバカ狼が。こんなこと、いつまで続けようってんだ！

アルフィノ： ◆◆◆……。君が最後に見た時も、このような状態だったか？
いや、妙に片付いていると思っとな……。……すまない、気にしすぎだろう。さあ、中に入ろうじゃないか。

シド： ……待て。

イダ： ダレだ！！



アルフィノ： 人に名を尋ねる時は、自分から名乗るのが礼儀だって教わらなかったかい？

イダ： アルフィノ様！ 君も！ なんと！ シドまで！

シド： よッ！ 久しぶりだな！

イダ： よかった……。みんな無事だったんだね！

シド： ……しかし、ひどい有様だな。

イダ： みんなで蛮神「タイタン」を倒そー！ って時に、グリダニアに向かって、お仕事してたんだけど……。帰ってきたら、こんなことになって……。

アルフィノ： イダ……。

イダ： ヤ・シュトラと一緒に、残った遺体を埋葬したり、ここを片付けたりしてたんだ……。

アルフィノ： 彼女も無事なんだな？

イダ： ……うん。今は、情報を集めるんだって出かけてる。
バビバリモや、ミンフィリアたちの遺体がないんだ。ヤ・シュトラが言うには、おそらく、どこかに連れ去られたんだろうって。

アルフィノ： やったのは、おそらく帝国だ。

シド： ……帝国が？

アルフィノ： 先の蛮神「ガルーダ」との戦いのおり、帝国の将、ガイウスが見ていたものがある。
……君だ。
ガイウスは「持たざる者」と言った。それが君のような「**特異な能力を持つ者**」に対し、言葉返して言っているとすれば……。
帝国は……少なくともガイウスは、君の「超える力」を知っていることになる。
その力を解明するために、ミンフィリアたちが拐われた可能性が高い。
「砂の家」の所在地まで知っていたんだ、敵の間諜が紛れていたか……それとも……。
いずれにしても、帝国が動いている。『暁』を立て直し、エオルゼアを救わなければならない。
協力してくれるか？

イダ： うん……まかせて……。まかせてちょーだい！

アルフィノ： よし、まずは休もう。みんな疲れている。
一休みしたら出発だ。

(超える力)
聞いて……感じて……考えて……

……光の意思を持つ者よ
……光のクリスタルを……
すべてのクリスタルを揃えし、勇なる魂を持つ者よ！

我が名はハイデリン……
あなたが棲む星の声……

ついに闇が動き出しました……

闇の化身……赤き仮面の者は
まもなく滅びにいたる混沌を招くでしょう……

あなたが手にした光のクリスタルは
闇を打ち払う武器となり 闇から身を守る盾となります

心して時を待つのです……

闇はすぐそこまで迫ってきているのです……

光の意思を持つ者よ……
どうかあなたの力を……
(超える力おわり)

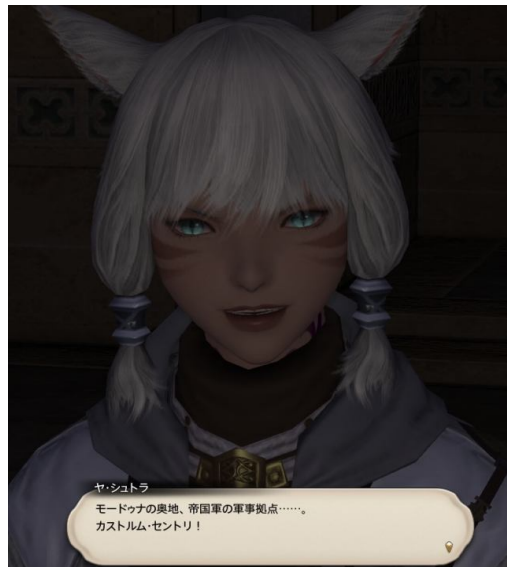


イダ : ヤ・シュトラ！

ヤ・シュトラ : みんな……無事だったのね。それに、シド、アルフィノ様まで。
なぜこのようなところに……。いえ、これは全て、レイゾフ様の導きかもしれない。
「暁」の灯火を消すな。……そう聞こえるよう……。
ミンフィリアたちの行方がわかりました。どうか皆、ご助力を。

アルフィノ : 場所は！？

ヤ・シュトラ : モードウナの奥地、帝国軍の軍事拠点……。カストルム・セントリ！



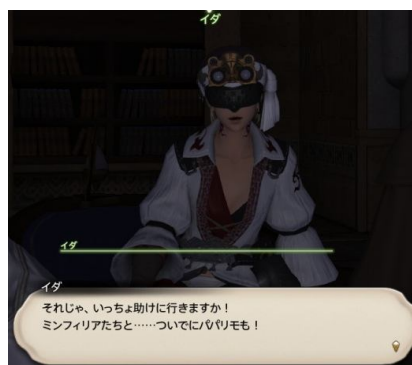
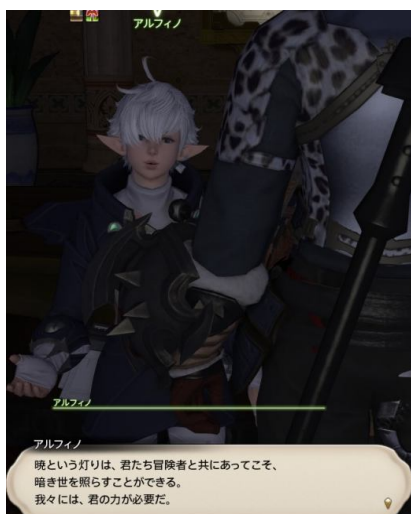
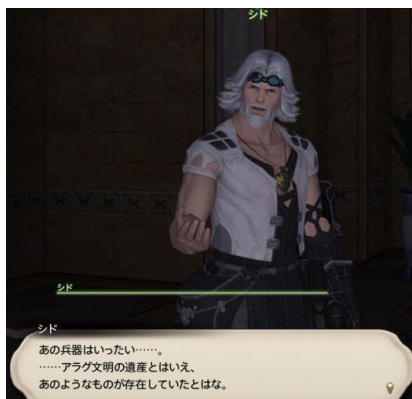
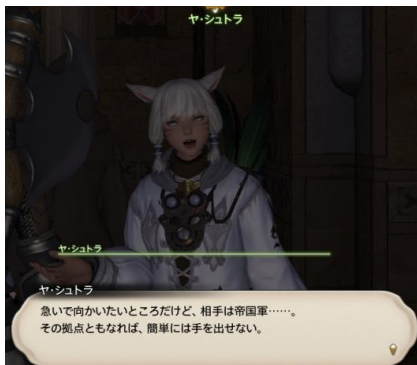
反攻の布石

ヤ・シュトラ：ミンフィリアたちは、モードウナの奥地にある帝国軍の軍事拠点「カストルム・セントリ」に捕らえられているらしいわ。急いで向かいたいところだけど、相手は帝国軍……。その拠点ともなれば、簡単には手を出せない。それに、私が使っているウルダハの情報屋の話では、「カストルム・セントリ」で何か動きがあったそうよ。……慎重に行動したほうがいいかもしれないわね。まずは「クルザス中央高地」の「アドネール占星台」へ向かいましょう。あそこには、高地における帝国軍の動きを探っている「ポルトウレーン」という名の騎士がいるの。彼をあたってみましょう。

シド：あの兵器はいい……。……アラグ文明の遺産とはいえ、あのようなものが存在していたとはな。

アルフィノ：暁という灯りは、君たち冒険者と共にあってこそ、暗き世を照らすことができる。我々には、君の力が必要だ。

イダ：それじゃ、いっちょ助けに行きますか！ ミンフィリアたちと……ついでにババリモも！



ポルトウレーン：冒険者が……このような地に何のようだ？ ……私に聞きたいことが？ ふむ、ヤ・シュトラ殿の仲間だったのか。いいだろう、話を聞こう。なに……？ 「カストルム・セントリ」で動きはなかったかだと？ ずいぶんと、ぶっくらぼうな質問だな。

ヤ・シュトラ：私たちの仲間が捕らえられているかもしれないの。少しでもいい、何か情報はないかしら？

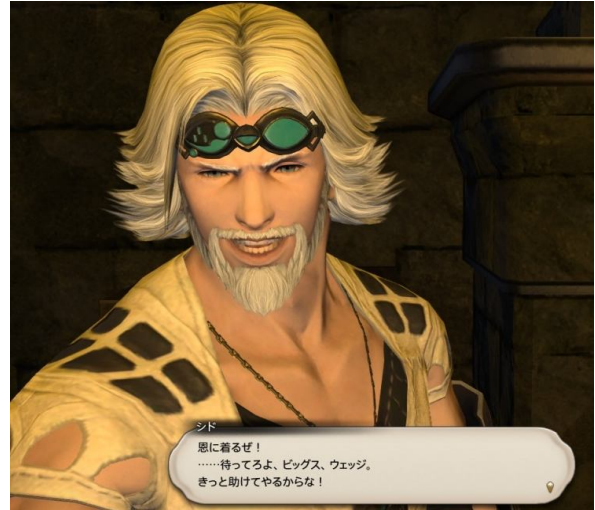
ポルトウレーン：ふむ……確かに最近、帝国軍に動きがあったぞ。何人かの捕虜が運び込まれたとの報告を聞いている。斥候の話によれば、金髪の女性を厳重な警備体制で護送していたというが……さすがに、それが尋ね人かどうかまではわからんな。

イダ：きっと、ミンフィリアだ！ さっそく助けに行かなきゃ！

ポルトウレーン：それに……。

ヤ・シュトラ：……まだあるの？

ポルトウレーン：ああ……。時同じくして、クルザスに帝国の飛空艇が不時着してな。捕虜らしき者が脱走したらしい。



シド： なんだって？

ポルトウレン： そっちは、ルガディンとララフェル。ともに、ガーロンド・アイアンワークスの制服を着た技術者風の者だったと聞いている。

シド： ……ルガディンとララフェルで、うちの社員だと？ 間違いない、ビッグスとウェッジだ！ よかった……あいつら生きていたんだな……。
◇◇◇！ ヤツらもいっしょに助ける訳にはいかないか！？
……ワガママを言っていることは理解している。しかし、これからの戦いに、ヤツらの力もきっと必要になる！

ポルトウレン： 捕虜が連れ込まれたからかもしれないが、ここしばらく「カストルム・セントリ」は警備が厳重になっている。
正面を切って突入するにしても、侵入するにしても、あの警備状況では、救出もままならないだろう。
その技術者も、お前たちの大切な仲間なんだろう？ そちらを先に救出してくるがいい。

ヤ・シュトラ： ……ミンフィリアの持つ「超える力」が解明されるまでは、いくら帝国軍でも、そう簡単に手を出すとは思えない。
逆に言えば、ガーロンド・アイアンワークスの2人を救うには、今しか機会がないわ。
……彼らは用が済めば、消される可能性も高い。

シド： 恩に着るぜ！ ……待ってろよ、ビッグス、ウェッジ。きっと助けてやるからな！

ネロ： まもなく最終調整が終了します。
……化石同然だったコイツを発掘して5年。閣下の想いを現実にする日が、すぐそこに来ているのです。

ガイウス： 我々は蛮神を打ち払う、絶対の力を手に入れた。この地を未来へと導くためには、力こそが須要。
弱き為政者どもが掴みえなかった真の平和……。エオルゼアを我が手に収め、これを創造する。

ネロ： ……御意に。完全な状態に仕上げてご覧にみせます。



ガイウス： リットアティンよ。明朝0時を以て「カストルム・オクシデンス」への異動を命ずる。
ぬしには「カスッテルム・マリヌム」の兵力も併せ、総計四個歩兵大隊の指揮を任せる。
オクシデンスに陣を構え、エオルゼア西部を固めよ。
決戦は近い……。ウルダハとリムサ・ロミンサのグランドカンパニーを見事、抑えてみせよ。

リットアティン：陣営隊長リットアティン・サス・アルヴィナ。「カストルム・オクシデンス」への異動を拝命、四個歩兵大隊を指揮いたします。しかし、属州出身の私めに、軍団の半数近い兵力を任せようとは……。我が命に代えましても、閣下のために滅私奉公する所存。

ガイウス：……全ては、ぬしの実績によるもの。我への忠義は、任を果たすことで示せ。

リットアティン：ハハッ！

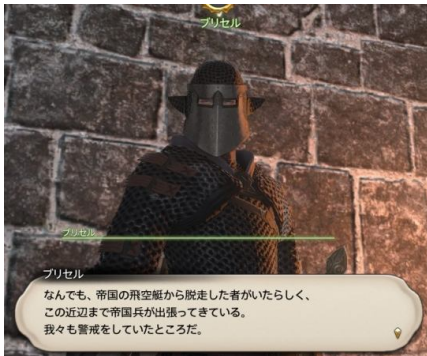
ガイウス：……後ほど、わしの私室へ出頭しろ。

帝国を見張る目

ポルトウレーン：私は**アパラシア山脈**における、ガレマール帝国軍の情報を収集している。その関係で「暁」のヤ・シュトラ殿と縁があつてな。先ほど伝えた、帝国軍の飛空艇が不時着したとの報告は、「ゼーメル要塞」から届いたものだ。……よし、この紹介状を衛士「**ブリセル**」に渡すといい。私からだといえ、詳しく話をしてくれるだろう。「ゼーメル要塞」は、ここを出て西に進んだ先にある。街道沿いにも魔物は多い、気をつけろよ。仲間と合流できることを祈っているぞ。

ブリセル：ここはイシュガルド四大名家のひとつ……ゼーメル家が守護する、ゼーメル要塞である。……用なき者は立ち去るがよい。これはポルトウレーン殿から？ ……なるほど、例の飛空艇が不時着した件か。なんでも、帝国の飛空艇から脱走した者がいたらしく、この近辺まで帝国兵が出張ってきている。我々も警戒をしていたところだ。帝国に囚われた同胞を探している、と？ ならば、その脱走者が関係している可能性があるな。よし、南西の「オーラムヴェイル」に向かいませう。彼の地を守る衛士たちが、墜落現場に偵察隊を派遣していたはずだ。「**ピエルモン**」という名の衛士に詳細を尋ねるがよい。

ピエルモン：……飛空艇の不時着ですか？ ええ、たしかに見ましたよ。飛空艇自体はすぐに飛び去ったようでしたが……。その場に残った帝国兵たちは、ずいぶんと騒いでいましたね。



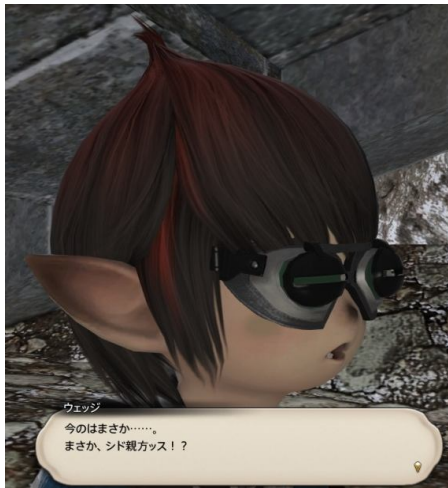
ふたりの脱走者

ピエルモン：帝国兵たちが騒いでいたのは、飛空艇に乗っていた何者かが不時着の際に逃げだしたのが原因のようです。帝国軍の一隊が、捜索のために出たらしく、私が不時着現場を偵察していた間に、ここにも何者かが立ち寄った形跡がありました。……見てのとおり、奥への扉は固く塞いであるため、すぐに立ち去ったようですが。ここに来ていたのは2人組のようです。その辺りを調べれば、まだ足跡が残っているでしょう。

ウェッジ：……ひいいい、ひいいい……。ここはどッス、寒いッス、帰りたいッス……。……ビッグスううう……。どこいったッスううう……。ひゃあああ！ たた、助けてッス！？ たた、食べてもうまくないッス！？ ああ！ ◆◆◆！ ……あう、怖かったッス！ 帝国軍は追いかけてくるし、魔物はいるし、寒いし、お腹は減ったし、寒いし……。とにかく怖かったッス！！ビッグスは、ここにはいないッス……。オイラを助けるために、帝国兵の注意を引いて別方向へ逃げていったッス……。

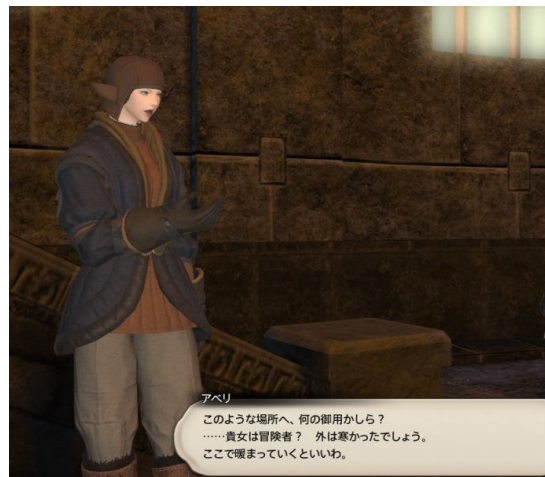
シド：……俺だ、シドだ。どうだ、ヤツらの情報は、何か得ることができたか？ ……なんだった？！ ウェッジを見つけたってのか！ さすが、◆◆◆だ！ 感謝するぜッ！ ……ふむ、ビッグスはまだ見つかってないんだな。俺も「ゼーメル要塞」周辺を探したが、見つけることはできなかった。西の方に逃げたのは間違いないさうなんだが……。いや、イダとヤ・シュトラも探してくれている。きっと見つかるさ。俺もヤツを探しながらそっちに向かう。……そうだな、まだその辺りは、帝国兵がうろついている可能性があるな。そこから西に「**秘石の塔**」という石塔があるはずだ。帝国軍もさすがに少数では、イシュガルドの拠点に近づきはしないだろう。そこで落ち合うぞ。

ウェッジ：今のはまさか……。まさか、シド親方ッス！？ ……よかった……。親方、無事だったッス……。えぐ、えぐ……。ホントに、よかったッス……。……少し元気だったッス！ シド親方が来るまで「秘石の塔」で待つッス！



ウェッジ

今はまさか……。
まさか、シド親方ッス！？



アベリ

このような場所へ、何の御用かしら？
……貴女は冒険者？ 外は寒かったでしょう。
ここで暖まっていくといいわ。

アベリ：このような場所へ、何の御用かしら？ ……貴女は冒険者？ 外は寒かったでしょう。ここで暖まっていくといいわ。
あら大変、そちらの方はずいぶん凍えている様子。ささ、こちらで火にあたってくださいな。
……今、何か飲み物を持ってまいりましょう。
落ち着いたかしらね。しばらくここで、ゆっくりしていきなさいな。
……貴女もよ。急ぐ旅ほど休息は必要なんですから。

ビッグスの搜索

ウェッジ：◆◆◆、お願いがあるッス！ビッグスを助けてほしいッス！ ……きっと、あいつは今もひとりで逃走中ッス……。
あいつは、帝国の飛空艇から脱出するときに、オイラを助けるために、帝国兵の注意を引いて別方向へ逃げていったッス……。
でも、バラバラに逃げるようになったから、どこに行ったのかまではわからないッス……。
……そのアベリさんなら、何か見てないッス？

アベリ：……そちらのお連れの方ですか？ 残念ですが、見ておりませんわ。
そうね……この「秘石の塔」の近くに、「**ハルオーネの射目**」という洞窟があります。
あそこなら、身を隠すことができるかもしれません。もし、こちらの方に逃げているとするならですけど……。
物は試し、行ってみてはいかがかしら？

ウェッジ：ど、どうだったッス！？ ビッグスは見つかったッス！？
……ダメだったッス……。 きっと、こっちの方には逃げてきてないッス……。 ……ビッグス、いったいどこに行ったッス……。

炉には炎を、回せ歯車

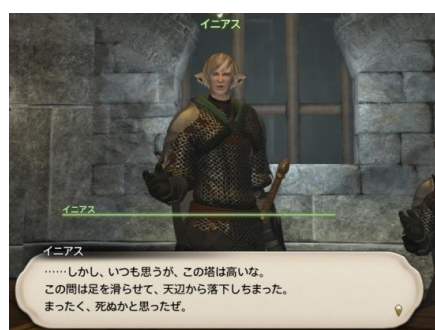
ウェッジ：◆◆◆、お願いッス！もう一度……もう一度だけ、ビッグスを探してほしいッス……。
きっとあいつは、この雪の中、ひとり凍えてるッス……。どうしても助けてやりたいッス！
でも、いったいどこに行ったッス……。 ……この辺りで、どこか行きそうな場所を知ってそうな人に聞いてみてほしいッス！

イニース：この雪の中、人探しだって？ ご苦労なことだなあ。
……この辺りで行きそうなところねえ。ここの周辺でも、ゼーメル要塞の方でもないとなると、
ホワイトブリム方面に行ったのかもしれないな。
ここから北東、月の衛星「ダラガブ」の破片を越えた辺りに、ホワイトブリムへ抜けるための、
「聖ダナフェンの旅程」という洞穴がある。
何も手を打たないよりはマシだろう。行ってみちゃどうだい。
……しかし、いつも思うが、この塔は高いな。この間は足を滑らせて、天辺から落下しちまった。まったく、死ぬかと思っただぜ。



ウェッジ

でも、いったいどこに行ったッス……。
……この辺りで、どこか行きそうな場所を
知ってそうな人に聞いてみてほしいッス！



イニース

……しかし、いつも思うが、この塔は高いな。
この間は足を滑らせて、天辺から落下しちまった。
まったく、死ぬかと思っただぜ。

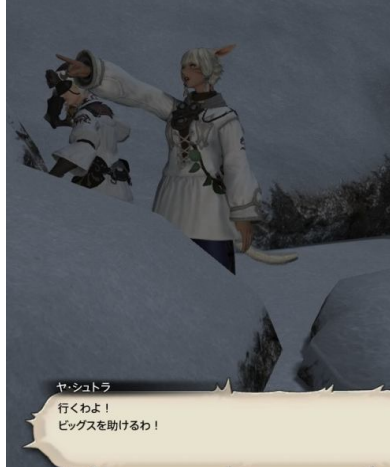
帝国軍軍団兵：無駄な抵抗は止めろっ！ おとなしく我々に従えば、命は保証する！

ビッグス：くっそ……！ ここまでなのか……！？

ヤ・シュトラ：◆◆◆、来たわね。……状況は見てのとおりよ、芳しくないわ。

イダ：ヤ・シュトラ……そろそろヤバイ。寒さと緊張の連続で、彼の体力はもう限界だよ。行ったほうがいい。

ヤ・シュトラ：……イダの言うとおりね。この辺りにどれほどの帝国兵が潜んでいるのか、気がかりではあるけど……。行くわよ！ ビッグスを助けるわ！



帝国軍軍団兵：くっ……仲間か！？ 迎え撃てっ！

ビッグス：み、みんな……！ ハハッ、諦めないでみるもんだな！

Vコホルス・デクリオン：うろたえるなッ！ 増援を要請した、すぐに到着するはずだ！

イダ：来るならこいッ！ まとめて相手したげるよ！

ヤ・シュトラ：イダ、安い挑発はやめなさい。……黙ってぶちのめす、それだけよ。

Vコホルス・デクリオン：増援がきたぞ！ 魔導ヴァンガードで、ひねりつぶしてやる！

ヤ・シュトラ：◆◆◆、ビッグスを守ってあげて！

イダ：うわっ、また来た！？ 張り切りすぎだって！

ヤ・シュトラ：あなたが挑発なんてするからでしょ！ ……これが終わったらお仕置きね。

ビッグス：あとは……こいつらを倒せば……！

ビッグス：た、助かったぜ……。ありがとう……つく……。

ヤ・シュトラ：まずい、かなり体力を消耗しているわね。……私とイダで彼を連れて行くわ。
わかったわ、「秘石の塔」へ向かえばいいのね。先に行っておくから、あとで会いましょう。

イダ：うっし、ウェッジとビッグスが戻ってきたよー！ 早くシドに会わせたい！ ……じゃ、先に行ってるね！

ウェッジ：よかったッス……。ビッグスが帰ってきたッス……えぐ……えぐ。

ビッグス：◆◆◆、ありがとう。……おかげで命拾いできたぜ。
ウェッジも助けてくれたんだってな。これで、俺たちを助けてくれたのは2度目だ。……感謝の言葉もない。

シド：ウェッジ！ ビッグス！ ……お前たち、よく無事で！ 来るのが遅くなって悪かったな。

ウェッジ：親方ああ、シド親方ああ！ えぐ、えぐ、親方も生きてたッスうう……。



ビッグス：……心配しましたよ、シド親方。でも、無事でよかった……。

シド：それにしても、お前たち、これまでどうしてたんだ。砂の家が襲われた時、何があった？

ビッグス：あの日、砂の家は帝国軍に襲われたんです……。奴ら、ベスパールベイにいきなり現れたかと思うと、あっという間に砂の家を制圧しちゃった……。その時、俺たち2人は、表で機材のメンテナンスをしてたんです。突然の出来事に、抵抗もできず捕まっちゃいました……。

イダ：でも、ベスパールベイへの経路は、「不滅隊」が駐屯しているんだよー。そんなに簡単に突破されるなんて……。

ヤ・シュトラ：私たちが帰った時も、ベスパールベイ、それにホライズンには被害がなかった……。……そうか、アシエンの時空転移を……。

シド：……それから？

ウェッジ：……砂の家で捕まったオイラたちは、目隠しをされて、しばらく移動したあとに、帝国軍の飛空艇に乗せられたッス。護送中は貨物庫の一角に閉じ込められていたから、具体的なことはわからないッス。そのうち「カストルム・セントリ」で、ミンフィリアさんたちだけが降ろされて、オイラとビッグスだけが最後まで残ったッス。

シド：カストルム・セントリ……。……それで、お前たちは、どうやって脱出してきたんだ？

ウェッジ：オイラとビッグスは、カストルム・セントリで、帝国方面への飛空艇に寄せ換えられたッス。その時に細工して、飛び立った後にひと騒ぎ起こしたッス。……で、不時着のどさくさに紛れて脱出してきたッス！

シド：ビッグス、お前の仕業だな。……そういうことに頭が回るのは、大戦の時から変わんねえな。◇◇◇……。ウェッジを助けてくれて恩に着的。本当にありがとうよ。いろいろと疑問は残っているが、とにかく2人は戻ってきてくれた。……次は、ミンフィリアを救出する番だぜ。よし、これで、「ガーロンド・アイアンワークス」の再始動ってわけだ！……野郎ども、気合入れていくぜ！

ビッグスとウェッジ：オー！

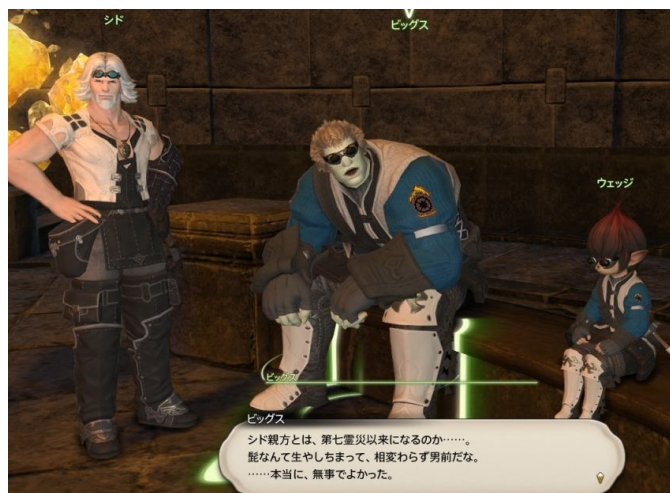
モードウナに集う猛者たち

シド：お前には本当に感謝しているぜ。あの2人……ビッグスとウェッジに、こうやって、また会わせてくれたんだからな。待たせちゃったな、次こそミンフィリアの救出だ。ミンフィリアが捕らえられているのは、帝国軍の軍事拠点「カストルム・セントリ」だ。まずは、ここから南東に進んでモードウナへ行くぞ。谷間に「レヴナンツトール」という冒険者キャンプがある。あそこには、モードウナ方面を統括する、冒険者ギルドがあるはずだ。その顔役に話を聞こう。冒険者ギルドには、さまざまな情報が集まる。きっと何かしらの情報が聞けるはずだぜ。

シド：再会は嬉しいが、いつまでも居座っている暇はない。さあ、モードウナの「レヴナンツトール」に向かおう。次は「暁」の仲間を助けてやらないとな。

ビッグス：シド親方とは、第七霊災以来になるのか……。髭なんて生やしちまって、相変わらず男前だな。……本当に、無事でよかった。

ウェッジ：もうダメかと思ったッス……。温かい所に生きて帰ってこれて、ホント感激ッス……！



スラフボーン：こんな辺境の冒険者キャンプに、一体何用かな？ ……ふむ、「カストルム・セントリ」の様子を知りたいと。むむう……帝国の要塞に仲間が囚われておるのか。ならば、手助けをしてやりたいところだが、近頃あの要塞は、やたらと警備を強化していな……。それに、冒険者ギルドにも、例の「新型兵器」の噂は届いている……。今の帝国を刺激するのは得策ではないぞ？

ヤ・シュトラ：そうね……バビリモやサンクレッドはともかく、ミンフィリアは戦い慣れていない。表立って動くのは、よした方がいいでしょうね。

シド： ……となると、やはり潜入するしかないな。

イダ： でも、潜入っていったって、あそこは帝国の要塞だよ。警備も増えてるんでしょ？

シド： ああ、下手に潜り込んだところで見つかるだろう。……だから、正面から堂々と侵入すればいい。

イダ： ほえ？ しょーめんから？

シド： まずは、哨戒中の帝国兵を襲い、帝国の兵器である「魔導アーマー」を奪う。その上で、俺たちが帝国兵に変装し、魔導アーマーを伴って要塞へ行けば、正面からでも潜入することは不可能ではないはずだ。

スラフボーン： なるほどな……。帝国の要塞からは、周辺警備のために、定期的に帝国兵が出入りしている。魔導アーマーは帝国軍の魔導兵器。まさか、エオルゼアの住人が、それを使うとは思えない。

シド： ……決まりだな！

スラフボーン： ならば、このレヴァンツツールに居る、「グラウムント」に話を聞いてみるといい。奴は帝国に個人的な恨みをもっているからな。それに「カストルム・セントリ」の情報にも詳しい。きっと力になってくれるだろう。



ヤ・シュトラ： 私とイダは「カストルム・セントリ」の監視に行くわ。……簡単には始末されないとかわかっていても、やはりミンフィリアのことが心配なもの。

イダ： そっちの準備ができれば合流しようね！ まった、あとでー！

ヤ・シュトラ： ……ところで、イダ。その言葉遣いはどうにかならないの？ 少しは危機感を持ちなさい。

イダ： もってるてばー。ヤ・シュトラがピリピリしすぎなんだよー。あと、この喋りはねえ……。

グラウムント： ああ、オレがグラウムントだけど……。……誰だい、あんたら。ハッ……！？ まさか帝国軍のッ！？ ……なんだよ、同じ冒険者かよ。まったく、人をビビらせてんじゃねえよ……。で、オレに何の話だ？

帝国軍あざむき作戦

グラウムント： ふーん、帝国軍に囚われたお仲間を助けにね。……いいぜえ、協力してやんよ。オレも個人的に帝国軍に恨みを持っているからな。……へへ、ヤツらを出し抜く作戦でも考えるかねえ。っと、その前に……。まずは、そのお仲間とやらが、本当に「カストルム・セントリ」に居るのか確認したほうがいいかもしれないなあ。最近あそこは人の出入りが激しい。念の為に確認しておいたほうがいいかもんだ。「カストルム・セントリ」のはずれに、要塞から伸びている「排水口」があるんだ。……実はあれ、要塞内の司令塔と繋がっているのさ。奥は閉じられているから侵入まではできないけど、時折、内部からの声が管に反響して聞こえてくる。そこで情報を得ることができるかもしれない。お仲間が確認できたら作戦を……。……うーんと、何か作戦名は……。そうだ、「帝国軍あざむき作戦」を開始しようぜ！

生真面目な声 : ……それで……例の捕虜はどうしている？まだ……粘って……のか？
若い声 : どうもこうもねえよ……。あのミンフィリアとかいう女……尋問してもダンマリだ。……実際……よく耐えているぜ。
不機嫌な声 : ほかの……連中も同じだ。……特にあのエレゼン野郎……。わけのわからないことばかり……と言ってやがる。
若い声 : しかし……リウィア様は…… ……いったい……なんだってあの女を？
不機嫌な声 : なんでも俺たち……ガレアン族にない……不思議な力を……持っているとか……何とか。
若い声 : ……エオルゼアの……野蛮人が使う……魔法……みたいなもんか？
不機嫌な声 : さあてね……。それこそ……リウィア様に聞いてみなよ。
若い声 : き、聞けるわけないだろ！ そんな興味本位の……ことを聞いて……みろよ。あつという間に……首が……飛んじまう。
生真面目な声 : ……そろそろ……時間だ。リウィア様に怒られないうちに……持ち場に戻るぞ。

ビッグス : お前たちのことだ、やられたままではいけないと思ったが、魔導アーマーを奪って要塞に侵入しようとはな！
オレたちも、怖じ気づいちゃいけないな。

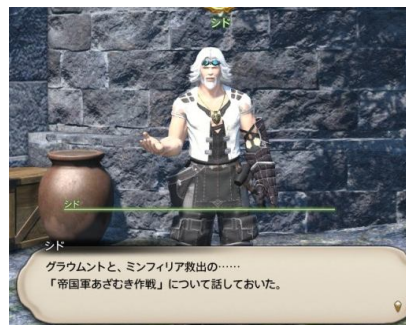
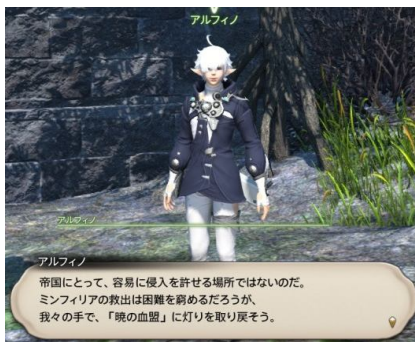
ウェッジ : 魔導アーマーを奪うなんて、しびれるツス！さすが親方のひらめキッス！

シド : 「カストルム・セントリ」の潜入……そしてミンフィリアの奪還、必ず成功させようぜ！

アルフィノ : ◆◆◆、どうだった？……なるほど、ミンフィリアは中にいる様子なのだ！それに、ほかにも囚われている者がいると……。では、救出の準備を進めよう。先ほどシドがグラウムントと計画について話していた。具体的な段取りをシドと相談してくれ。

アルフィノ : カストルム・セントリ……第七霊災後、敵将ガイウス率いる第XIV軍団が、旧カストルム・ノヴムを改装して作った基地だ。第XIV軍団が本国からの支援なしでも戦えるよう、兵器生産に用いる資源を採掘しているという……。帝国にとって、容易に侵入を許せる場所ではないのだ。ミンフィリアの救出は困難を窮めるだろうが、我々の手で、「暁の血盟」に灯りを取り戻そう。

シド : グラウムントと、ミンフィリア救出の……「帝国軍あざむき作戦」について話しておいた。予定どおり「魔導アーマー」を手に入れ、俺たちが帝国兵に変装して、正面から「カストルム・セントリ」に侵入する。魔導アーマー奪取の方は、グラウムントが別途計画を立ててくれている。それまで、俺たちは別の準備だ。さて、やるか！ ビッグスとウェッジの救出を手伝ってくれた分、はりきってみせるぜ！



即席の雷波塔

シド : ◇◇◇、協力してくれ。グラウムントが計画を立てている間、俺もやっておきたいことがあるんだ。だが、ここは敵の玄関先。「魔導アーマー」を奪ったとしても、通信されちゃったら、帝国兵に成り代わって潜入するって計画が台無しだ。そこで、万が一のために、帝国軍で使われている「雷波通信」に対する妨害装置を用意しようと思う。幸い、この近くにある「偏属性クリスタル」に、火属性を雷属性に変換する作用があることが分かった。こいつに細工して、周辺に妨害雷波を放射させる。ああ、すまない……簡単に言えば、大きな音を出して小さい音を消すってことだ。妨害するのは帝国の通信だけから、安心していい。十分な雷波を放射させるため、特に力の強い偏属性クリスタルに細工をしたい。調査用の装置を貸すから、クリスタルの反応を調べてくれ。目星をつけていたクリスタルを地図に記した。強い雷属性にはブラズモイドが引きつけられてくるから、気をつけて調査してくれよ。

シド : どうだ、使えそうなクリスタルは見つかったか？ ……調査を終えたら「雷波測定器」を返してくれ。……なるほど、4ヶ所が使いものになりそうか。これなら十分だ、助かったぜ。まあ、使わないですむことを祈るばかりだがな。

偽りの敬礼

グラウムント： あんたらに「帝国軍あざむき作戦」完遂のためにひとつ、やっといってもらいたいことがある。
耳の穴かつぼじて、よく聞いてくれよ。
帝国兵に変装するにあたり「帝国式敬礼」を習得するんだ。見た目も動作もヤツらになりきって寸法さ。
……どうだい、すげーあざむいちゃいそうだろ！？
ヤツらは職務上、何をするにもまずは敬礼からだ。あの要塞に侵入するにしても、敬礼をしっかりと返すことが重要になっからよ。
「カストルム・セントリ」の近くで身を潜めて、帝国兵たちの敬礼のやり方を調べてくるんだ。
どーんに行って、どーんと覚えてこい！

帝国軍の哨戒兵： ……異常なしッ！

帝国軍十人長： 見回り、ご苦労である。……このモードウナに不穏分子が潜んでいると、少し前に匿名の密告があったらしい。
我々は「カストルム・セントリ」に帰り、哨戒隊の再編を行う。見回りの頻度を上げるぞ。



グラウムント： どうだ、「帝国式敬礼」を覚えてきたか？
ああ、わざわざ見せなくていいぜ。嫌なモン思い出して、殴りたくなっちゃったら大変だ。準備ができたなら、それでいいさ。

帝国兵なりきり装備

サルク・マウルク： グラウムントさんから計画を聞きましたよ。何でも、帝国軍に囚われた同胞を助けだすのだとか。
……同じ冒険者として、私も協力しましょう。
侵入に使う、帝国兵の兵装を用意しなくてはなりませんね。それに、顔を隠すための兜も必要でしょう。
下手に裏の道を使うと足がつきます。正々堂々、帝国兵と戦って手に入れるほうが、この場合は、逆に安全です。
シドさんとグラウムントの話では、侵入するのは3人。……あなた、ビッグスさん、ウェッジさん。
3人分の兵装と兜を手に入れましょう。
哨戒中の帝国兵がよく目撃される場所を、地図に記しておきました。どうぞお役にたください。
……そうそう、兵装と兜を手に入れることができたなら、私に一度、見せていただけますか？ なに、悪いようにはいたしませんよ。

サルク・マウルク： 帝国兵の兵装、それに兜は手に入りましたか？ 手に入れることができたなら、私に一度、見せていただけますか？
……ふむ、やはりそうでしたか。戦いで傷んでいると思っていたのです。戦闘跡が残っていると怪しまれてしまいますね。
この兵装と兜を修理しなくては……。防護性まで完璧に修繕するのはムリですが、
外見だけ、それらしく見えるようにすればいいですよ。
兵装は、ウルダハの「裁縫師ギルド」に。兜は、リムサ・ロミンサの「甲冑師ギルド」に。
それぞれ持ってっていただけますか？
各ギルドへは、私から連絡をしておきますので、そこから足がつくことはありません。どうぞ、ご安心を……。

エーセルワイン： ……◆◆◆さんですか？ サルク・マウルク様より、ご連絡を受けていますよ。なんでも、傷んだ服を縫いなおすのだとか……。
これは……。なるほど、何やら訳ありのご様子ですね。……内密に処理しますので、ご心配なく。
サルク・マウルク様には、いつもお世話になっております。先日、専用のチョコボポーターでのエオルゼア一周の道中、
ここにも、お立ち寄りいただきました。
今はたしか……冒険者になっておられるとか。お父様の跡をお継ぎになってくださると、私としてはうれしいのですけどね。
……と、お話している間に縫い終わりましたよ。間に合わせのため、防護性までは保証できませんが、十分に着れると思いますよ。
こちらをお持ちください。サルク・マウルク様にも、よろしくお伝えくださいね。



ハ・ナンザ : よう◆◆◆かい? サルク・マウルク様より、連絡を受けてるよ。傷んだ兜を打ちなおすんだって?
……なるほどね、そういうことかい。あの人のやりそうなこった。安心しな、内密に処理しておくよ。
あの人は、ウルダハのとある商人のご子息なんだけどね。冒険者ってのに異常な憧れを持ちちゃってさ。
趣味が高じて、ついには本物の冒険者になっちゃった。まあ、この「ナルディック&ヴィメリー社」が潤うなら、
私はどっちでもいいんだけどさ。
……ほらよ、こんなもんでいいだろう。時間をかけりゃ、完璧に仕上げてみせるんだが、とりあえず見た目だけは整えておいた。
これを持っていきな。サルク・マウルク様に、よろしく伝えておいてね。

サルク・マウルク : 帝国兵の兵装、それに兜は整えていただきましたか? 確認しますので、私に一度お渡しく下さい。
……おふたりとも、相変わらずいい仕事をしますね。任せて正解でした。これなら、変装するには十分でしょう。
これで、帝国兵になりきることができますね。変装する際は、くれぐれもきちんと装備してくださいよ?
では、こちらはお返しします。
……帝国は、他国に攻め込んで属州とし、現地民を徴兵して、戦力としているのです。
そして反乱を防止するため、兵を方々へと頻繁に異動させる。つまり、末端の兵士に関しては、個人の認識がかなり低い。
そこに付けこめば、侵入も容易でしょう。
私のような者が、あなた方のお力になれて幸せに思います。……おや、私が富豪の息子ですって?
……おかしいことをおっしゃいますね。私は一介の冒険者……。志を同じくする者として協力させていただいただけですよ。



魔導アーマーを奪取せよ!

グラウムント : さって、準備は整ったな……。こっちも「魔導アーマー」奪取の計画が立ったところだ。耳の穴かっぽじって、よく聞いてくれよ。
「カストルム・セントリ」の周辺を警戒する哨戒部隊は、魔導アーマーを配備していることが多い。
だが、哨戒部隊の出入りは不定期なうえ、滅多にレヴナツツールの方までは出張ってこない。
警備が厳重になった最近でも、それは同じだ。
そこで少し前に、不穏分子が「カストルム・セントリ」を狙っているとの情報を匿名で流しておいた。これで哨戒の頻度も増えるはずだ。
その哨戒部隊に対し、帝国兵に扮して、「怪しいヤツが居る」とでも注意を促す。そうやって、できるだけこの近くまで誘導するんだ。
次に、帝国式の狼煙を焚く。そうすれば、緊急事態と察した哨戒部隊が、おっとり刀で駆けつけるだろうぜ。
そこを襲って奪取るって寸法さ。……どうだい、すげーあざむいちゃってるだろ!?
狼煙を焚くのには、こいつを使いな。さっきヤツらの荷物からかっぱらってきた、「帝国式発煙筒」だ。
……つと、もうすぐ哨戒部隊が見回る時間だ。どーん行って、どーんと奪ってこい!

(着替え前)

気さくな軍団兵 : お前は……ああ、内通者か? 冒険者が堂々と近寄ってくるもんだから、何事かと構えちゃったぜ。

心酔しきった軍団兵 : この先は、我ら「ガレマール帝国」の要塞……。知らず立ち入ったでは済まされんぞ。

苛立った軍団兵 : んん〜!? 貴様、冒険者か? この制服が見えているなら、さっさと去れ! 不穏分子として捕らえるぞ!?

悩ましそうな軍団兵 : ……………はあ……。

帝国軍百人隊長 : 冒険者……いや、変装中の密偵か? 任務中の会遇は敬礼するのが礼儀であろう。怠れば怪しまれるぞ。

(着替え後)

気さくな軍団兵 : よう、見回りか? お互にご苦労さんだな。早く任務を終えて、国へ帰りたいよ。

心酔しきった軍団兵 : 我ら「ガレマール帝国」の力は、未来への道を切り開くためにある。昔、上官に教わった言葉だ……。

苛立った軍団兵 : おらおら! 働け! さっさと哨戒を済ませれば、それだけ早く帰れるんだ! ……おら、働け!

悩ましそうな軍団兵 : オレの小遣い、いくらだか知ってるか? 田舎にいる女房への送金で、いくらも残ってないよ……。
はあ……警備班は辛いなあ……。

油断した軍団兵 : 不穏分子なんてただの噂だろ? 「カストルム・セントリ」を襲おうなんて馬鹿な奴はいないよ。

帝国軍百人隊長 : 見回りの別働隊の者か? ご苦労である。……どうした? 任務中の会遇は敬礼するのが礼儀であろう。
うむ、見回りご苦労。……なに、この辺りに怪しいヤツが? やはり不穏分子が居るという密告は本当だったのか。
もし何かあれば、「帝国式発煙筒」を使うんだぞ。我々がすぐに駆けつけるからな。
では、引き続き見回り任務を頼む!



シド : よう、作戦は上手く進んでるようだな。魔導アーマーを奪取するなら、技術屋がいたほうがいいだろうと思ってな。
……見ろよ。丁度おいでなされたようだ。

帝国軍百人隊長 : これは……何事だ？ てっきり、先ほど報告があった不穏分子の件だと思ったのだが……。

帝国軍警備兵 : 隊長、あれをッ！

帝国軍百人隊長 : 貴様、不穏分子だな！「魔導アーマー」を出せ、叩くぞ！

シド : 俺も手伝うぜ！ 魔導アーマーを奪うには、機能を停止させるんだ。
少しの故障は構わない。邪魔な帝国兵を蹴散らしたら、魔導アーマーを狙え！

Vコホルス・エクセス : 交戦中の小隊を発見、加勢する！

シド : おいおい、技術屋にはつらいぜ……。魔導アーマーがオーバーブーストした！！
魔導アーマーの出力が上がった……！？ 気をつけろ、攻撃を食らうと痛いぞ！
そろそろか……鉄くずになる前に止まってくれよ！

シド : よくやった！ これで「魔導アーマー」は手に入ったな！
……しかし。こいつはちょっと、やりすぎちゃったようだ。
ビッグス、ウェッジ！ どうだ、何とかなりそうか？

ビッグス : 派手に煙は出てますけど、そこまで深刻なダメージじゃないですね。すぐにでも直せるでしょう。

ウェッジ : それよりも「脚」が上手いこと動かないッス。もしかしたら、内部の制御装置がヤられてるかもしれないッス。

ビッグス : そんなにヤワな代物には思えんがなあ。打ちどころが悪かったってやつか？

ウェッジ : そもそも整備不良だったかもッス。……帝国の財布も火の車ッス？

ビッグス : ……何にせよ、持ち帰って調べてみるぞ。ウェッジ、今日は徹夜だ！

ウェッジ : ……楽しい職場ッス。

ビッグス : ぼやくな！

シド : 故障したまま潜ってわけにもいくまい。いったん整備のために、「レヴナンツツール」に持ち帰るとしよう。
俺たちは先に帰っておく。お前も、気をつけて帰ってきてくれ。

スラフボーン : 奪取した魔導アーマーなら、この中で修理中だ。どこに帝国の目があるかわからんからな。……中に入るか？

ウェッジ : やっぱり、魔導アーマーはでっかいッス。オイラ何人分ッス？

ビッグス : 腕に掲げた歯車印は、親方率いる名工集団、ガーロンド・アイアンワークスの証。こいつのことは任せてくれ！

シド : よう、帰ってきたか。「魔導アーマー」の損傷箇所を一通り調べてみたが、制御装置を除けば、たいした損傷はないようだ。
ビッグスとウェッジに任せておけば、すぐにでも修理してくれるだろうぜ。
2人とも、新しい「オモチャ」を楽しんでいるからな。

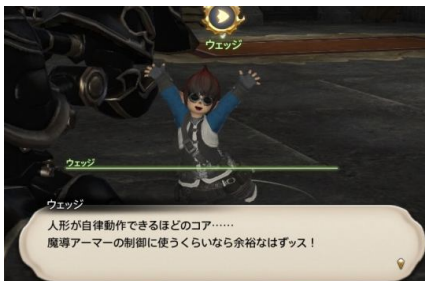
魔導兵器のみる夢

シド：「魔導アーマー」の修理は順調に進んでいるぜ。完了まで、それほど時間もかからないだろう。……ただ、ひとつだけ問題があったな。やはり制御装置に使っている、魔導コアの損傷が激しいようだ。……もともと、これは脆い部品でもあるからな。……コアとは、いわば頭脳だ。このまま無理に使い続けることもできなくはないが、入れ替えておいたほうが得策だろう。このエオルゼアで帝国製と同じコアを作ることは難しいが、ウェッジが何か思いついたと言っていた。話を聞いてみてもらえるか。

ウェッジ：シド親方に聞いたッス？ 魔導アーマーの「魔導コア」が使いものにならない状態ッス……。コアは壊れやすい部品ッス。だから、破棄された帝国の魔導兵器からの回収は難しいと思うッス。……そこで閃いたッス！ 魔導コアの代わりに、マメットに使われている、「魔法人形のコア」を使うッス！ 人形が自律動作できるほどのコア……魔導アーマーの制御に使うくらいなら余裕なはずッス！ ウルダハの「彫金師ギルド」に連絡をしておいたから、「魔法人形のコア」を受け取ってきてほしいッス。……もしかしたら、いいお値段するかもッス……。

シド：魔導アーマーというのは、青燐機関を動力源とする機動兵器の総称だ。こいつは中でも「リーパー」という型にあたるんだ。

セレンディピティー：どうもこんにちは！ 「彫金」についてお尋ねですか？
……あら、「魔法人形のコア」を？ はい、ガーランド・アイアンワークスのウェッジさまより、ご連絡を承っております。あ、お代は結構ですよ！ 実は先ほど、アルフィノさまからもご連絡がありました。なんでも、とても重要なことにご使用になるとか！ アルフィノさまには、先代からお世話になっているのです。ですから、当ギルドにある「魔法人形のコア」の中でも、とびきりの一品をご用意させていただきました。こちらをお持ちください。みなさまのご武運をお祈りしておりますっ！



スラフボーン：工房に入るのか？ 我々も気をつけているが、コッソリ入るのだぞ。

ウェッジ：ウスウス……早く「魔導アーマー」を起動させたいッス！ 「魔法人形のコア」は、手に入ったッス？ おお、これッス！ 助かったッス！ これは、かなり上等な代物ッス……。いいお値段したッス？ お金足りたッス？ なんと！？ アルフィノ様のおかげでタダ……ッス！？ さすが、**ルヴェユール家の御書司**……格の差ってのを感じるッス……。さて、こっちの準備はできてるッス。さっそく「魔導アーマー」に取り付けるッス！ できたッス。フッー！ 我ながら、いい腕前ッス！ よし、魔導アーマー起動ッス！ ……あれ？ この！ 今度こそ、魔導アーマー起動ッス！ さっそく試運転ッス！ 具合を見るから、試し乗りしてほしいッス！

シド：俺が戻ってから、最初の大物だ。ガーランド・アイアンワークスの名にかけて、きっちり修理しないとな。

ビッグス：試運転は、何度やっても緊張するな……。しかもシド親方に見られてるなんて、新米の頃を思い出すぜ。

ウェッジ：さっそく試運転をするッス！ まずは「魔導アーマー」に乗ってみるッス。その辺りを何箇所か回って見て、状態をしてみるッス。中央の高台を一番上まで登ってみるッス。もし、魔導アーマーから降りたときは、オイラに声をかけてくれれば試運転を再開するッス！

ウェッジ：……ふむふむ「脚」は問題なし……ッス。パッチリッス！ 次はそこから飛び降りて、北に向かって全力疾走ッス！

ウェッジ：……よしよし「膝」も問題なし……ッス。パッチリッス！ 最後に、こっちまで戻ってくるッス。

ウェッジ：……うむうむ「腰」も問題なし……ッス。言うことなしッス、おつかれさまでしたッス！ 「魔導アーマー」を降りてほしいッス。

魔導アーマー：……………。

ウェッジ：駆動系はまずまずッス。あとでビッグスに調整してもらえば元通りッス。でも制御系が……。魔法人形のコアは、動作してるッス……。……でも、なんか正常には動いていないッス。もしかして、手荒く扱い過ぎたッス！？ もっと歓迎しないとダメッス！？ よし！ みんなで「魔導アーマー」を「歓迎する」ッス！

魔導アーマー：……………。

ウェッジ：みんなで「魔導アーマー」を「歓迎する」ッス！ ガーロンド・アイアンワークスへようこそッス！！

シド：魔導兵器に「歓迎する」なんざ、ウェッジらしいな。コアには感情なんざ存在しないが、まあ物に感謝するってのは、たしかに大事な心がけだぜ。

ビッグス：うーん、魔法人形のコアは動いているんだがなあ。いったい何が原因だ……？ ……せっかくの歓迎も台無しだぜ。

シド：駆動系は大丈夫だが、問題は制御装置か。……この「魔導アーマー」は、制御装置が操縦補助をしているんだ。これがないと、細かな足回りの操作まで、全部手動で操縦しなくちゃならん。……そうなりゃ、操作に慣れるまで数年はかかる。お前が手に入れてくれた魔法人形のコアはしっかり動いてはいるんだが……。なぜか、現状だと半分も補助できていなくてな。……ウェッジ。こいつが「眠っている」原因はわかるか？

ウェッジ：原因不明でわからないッス……。なんだか「起きる」のを嫌がっているみたいッス。……こいつも寝不足ッス？

ビッグス：た、大変だ！ シド親方、帝国のやつらが襲ってきた！

シド：なんだと！？ クソッ、さすがにバレちゃったか！

帝国軍百人隊長：あつたぞ、鹵獲されたリーパーだ！ 取り押さえろ！
なにッ！？ ……奴はシド・ナン・ガーロンド！？ それに、例の冒険者ではないか！
おい、本部へ連絡しろ！ 援軍を要請するんだ！



シド：そうは行くかよッ！

帝国軍通信兵：こちら調査隊！ 本部、応答願います！ ……本部？ 本部、応答を！
ダ、ダメです！ 強力な妨害雷波が生じているもよう！ 通信できません！

帝国軍百人隊長：姑息な真似を！ シドの仕業か……！
ええいッ、かまわん！ リーパーを破壊しろ！

シド：あの魔導兵器、やっかいだな……。いいか、なんとしても「魔導アーマー」を守るんだ！

Vコホルス・セクトール：リーパーを破壊せよ！ 反逆者どもの企みを阻止するのだ！

シド：こいつの修理は、うちが預かってんだ。お前らには壊させねえ！

ウェッジ：やばいッス！ 魔導アーマーを守ってほしいッス！

ああっ、魔導アーマーがやられてるッス！

ビッグス：よし！ 増援はこない、そいつらで終わりだ！

ウェッジ：シド親方ッ！ 見るッス……「魔導アーマー」が！

シド：ようやく起きやがった！ ……これで、準備が整ったな。
◇◇◇。いよいよだぜッ！
帝国の要塞「カストルム・セントリ」に潜入して、ミンフィリアを助けだすぞ！

ウェッジ：フッー！ これで完成ッス！

シド：ようやく「魔導アーマー」がちゃんと起動したな！ 最終調整が残っているが、これはすぐに終わるだろう。
すべての準備は完了……！ さて、我らが姫様の救出に向かうぜ！

カストルム・セントリからの救出

シド： ◆◆◆、準備はできたか？ そろそろ出発するぜ。
……来てくれたのか。ちょうど、これから出ようと思っていたところだ。

グラウメント： ああ、見送りにな。なんせ、ようやくオレの願いが叶うってんだからよ。

シド： ……そういえば、聞いていなかったな。いったい帝国にどんな恨みが……？ ああ、すまない。辛い思い出なら言わなくても……。

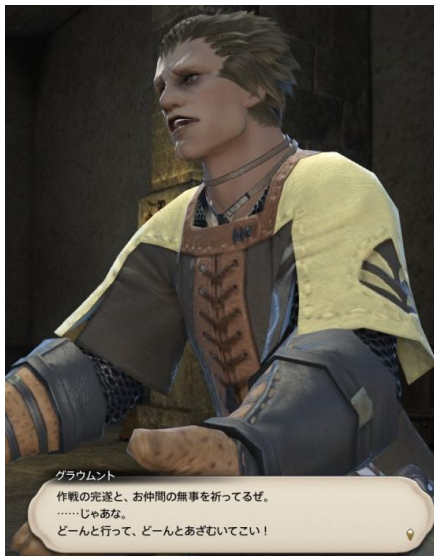
グラウメント： いやいや、いいってことよ。オレも、あんたには話しておきたいと思っていたんだ。
……とはいっても、よくある話で面白みはないぜ？
帝国軍に家族を奪われたんだよ。……母ちゃん、いつも笑顔でな。オレや妹にも、すげーやさしかったんだ。
でもよ、戦争で帝国軍に捕まっちゃってさ……。最後は妹と2人、断崖から身を投げたよ。……オレの目の前でな。
……もう何年前になるかなあ。昔、アラミゴが陥落した時の話さ。
なんとか帝国に復讐してやろうと、オレは冒険者になった。……これでも頑張ってきたんだぜ？
だけどさ、結局、何にもできなかった。
でもな、オレは、あんたらを見て思ったよ。オレにはやれないことを、できるヤツらなんだって。

シド： 俺たちは仲間の救出に行くだけだ。「カストルム・セントリ」を攻めに行くわけじゃない。

グラウメント： わかっているって。でも、お仲間を無事助けたら、帝国とやり合うつもりだろ？ ……だったら、やっぱりオレの願いは叶うさ。
オレの願いは、オレの復讐を果たしてくれるヤツを探すことだったからなあ。あんたらなら、きっとやってくれる。

シド： お前は、直接復讐しなくていいのか。帝国が憎いんだろう？ なんなら、いっしょに……。

グラウメント： お誘いはありがたいけどな。……ダメなんだ。
母ちゃんが死ぬ前に、オレの背中を斬りやがってよ。心中を図るつもりだったんだろけど、
それ以来、戦いになると体が思うように動かなくてさ。
へへ、一方的な願いだ、気にしないでいいぜ。オレ自身はこれで満足してるんだから。
作戦の完遂と、お仲間の無事を祈ってるぜ。……じゃあな。どーンと行って、どーンとあざむいてこい！



シド： 帝国による支配は、悲しみしか生まない。……こんな戦い、一刻も早く終わらせるんだ。エオルゼアの民のためにもな……。
まずはミンフィリアを助ける。そして、戦いを終わらせる。……俺たちの手で！
よし、出発だ。これから「カストルム・セントリ」に侵入して、ミンフィリアを救出する。
俺とビッグス、それにウェッジの3人は、先行して「カストルム・セントリ」の付近に控えておく。お前も、準備ができたら来てくれ。
おっと、帝国軍の服を着るのを忘れるなよ。これは侵入作戦なんだからな。

シド： いいよ「カストルム・セントリ」へ侵入だ。そろそろ、哨戒中の部隊が帰ってくる。早く帝国軍の服を着るんだ。
もし帝国兵の装備を失くしたのなら、レプナツツールでグラウメントにもらうといい。予備を用意してくれているはずだ。
よう、なかなか似合ってるじゃないか。……ノリ、やめてくれてって顔だな。
このまま進めば「カストルム・セントリ」にたどり着くはずだ。
数刻前に、哨戒のために帝国兵の小隊が「カストルム・セントリ」を出ている。
俺とアルフィノは残って、哨戒部隊の注意を引く。お前たちは、そいつらと入れ替わるように侵入するんだ。
何かあれば、お前のリンクパールに連絡を入れるさ。いつでも出られるように、用意をしておけよ。
ウェッジが「魔導アーマー」で先導する。こいつから離れないように進行してくれ。
間違っても、要塞の中で、帝国兵の軍服を脱ぐなよ。そんな時は、さすがに命の保証までできないからな。
さっきまで、イダとヤ・シュトラが居たんだが、なんでも、気になるものを見つけたらしく、調査のために先行している。
2人からの伝言だ。無茶をするな……だとさ。
そろそろ、哨戒中の部隊が帰る時間だ。出発してくれ。
俺からも言っとくぜ、無茶はするなよ。……成功を祈っているぜ！

リウピア： ホントに強情なんだから。黙っていても、いいことないのに。
あなたたちの能力……「超える力」……。あれは私たちが必要な力。だから、いろいろと知りたいのよね。
あなたたちの目的は、蛮神退治なんでしょ？
アタシたちが、代わりにやってやるって言うてんだから、大人しく言うこと聞けばいいのよ！
すべて吐いて、この場で死ぬか。耐え難い辱めを受けて、苦しんで死ぬか。
どちらがいいかしらね？
「暁の血盟」盟主、ミンフィリア。
「超える力」を持つあなたの身体……。ゆっくり調べさせてもらうわ。
おい、コイツらをキャンプに連れていけ。カストルム・メリディアヌムの研究室へ送る。



帝国兵： ハッ！

ミンフィリア： みんな……。

ビッグス： さすがに警備が厳重だな……。この隔壁を開けるには、専用の鍵がいるみたいだ。

ウェッジ： うう……ドキドキ……ピクピク……！ オイラ、ちゃんと帝国兵に見えてるッス？

(制服着用)

帝国軍輸送兵： しかし、なんだって輸送班は、こんなに忙しいんだよ。捕虜の移送といい……新兵器の輸送といい……
まったく、忙しくて「敬礼」するヒマすらないよ……。

帝国軍百人隊長： 現在、カストルム・セントリ内は警戒態勢がしかれている。厳罰を科されたくなければ、余計な詮索をせずに働け。

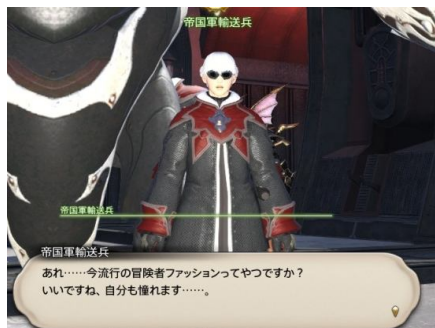
帝国軍十人長： 貴様、「オクシデンス」から出向している整備班の者か？ 上官に話すのに「敬礼」のひとつもできんのか？
まったく、これだから技術畑の奴らは……。

帝国軍警備兵： どうしよう……。……捕虜の女の子に恋をしてしまったのかも……。あの子に「敬礼」してもらいたいなんて……。

(制服以外)

帝国軍輸送兵： あれ……今流行の冒険者ファッションってやつですか？ いいですね、自分も憧れます……。

帝国軍十人長： 貴様、その格好は何だ！ まるで冒険者のようではないか！



帝国軍警備兵： き、君……ちゃんと制服を着ないと怒られるよ……。でも、冒険者ファッションも素敵だね。あの娘の服も可愛かったなあ……。

(敬礼)

帝国軍輸送兵 : おおっと……それは何でありますか？ てっきり、ちゃんと「帝国式敬礼」をしと、怒られるところかと思いましたよ。
おおっと、失礼しました！ ……いえ、急に捕虜を移送することになりまして、準備をしているところです。
捕虜は現在、物資保管塔に幽閉されているはずですよ。何人居たはずですが、移送するのは一人だけとか。
……残りの捕虜はどうなってしまうんでしょう……。

帝国軍十人長 : こら貴様！ 「帝国式敬礼」すらでんのか！ いくら貴様ら整備班が、こういった場に出ることに
慣れてないといっても大概だぞ！ やり直せ！
うむ、ご苦労である！ 帝国軍に勤める以上、敬礼は忘れるでないぞ！ ……なに？ 捕虜はどこかだと？
捕らえた「暁の血盟」の者たちなら、全員、物資保管塔に叩きこんでおいたぞ。
そんなことより、貴様もアレの整備を急げよ。ガイウス閣下より直々に特務が出ているのであろう？

帝国軍警備兵 : ちがうよ、僕がやってもらいたいのは「帝国式敬礼」なの！ あの娘にやってもらいたいなあ。こうピシッと決めてもらいたい……。
そう、その敬礼をしてもらいたいんだよ！ き、君も捕虜の可愛い娘をみたいかい？ ……金髪の女？ 何を言ってるんだ。
僕が言ってるのは、あのラファエルの娘だよ！ もう、ぎゅーってしたいくらい可愛いんだよ！
……もう一度会いたいけど、鍵は隊長が管理してるしなあ。

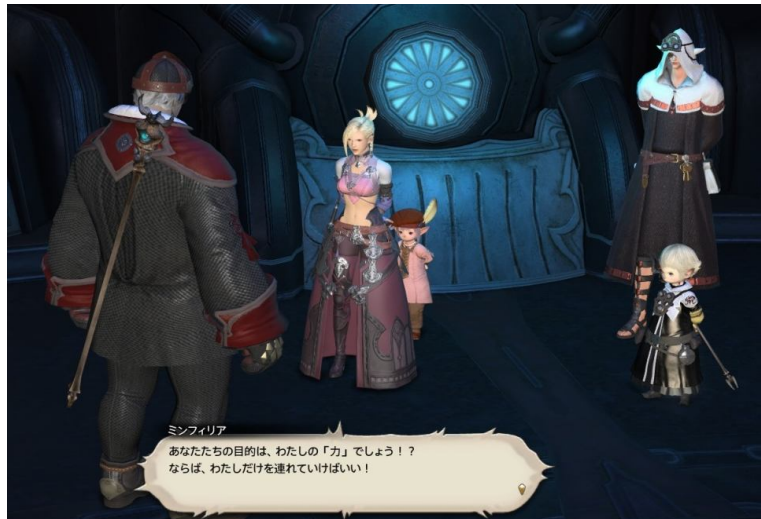
帝国軍百人隊長 : 何をふらふらしている！ 現在、カストルム・セントリ内は警戒態勢がしかれている。
監房行きになりたくなければ「敬礼」をして用件を話せ。
……いい度胸だな。ベッドで眠れるのは今夜で最後だと思っておけ。明日からは、監房の床がお前の寝床だ。
……この警戒態勢の最中に、基地内で冒険者のマネゴトとはよほど監房行きになりたいようだな。
それが嫌ならば、早急に「敬礼」をして用件を告げろ。
物資保管塔へ向かうための鍵だと？ お前のような一兵卒が、捕虜の拘留所に何の用だ。さては……。
……まあいい、これが「帝国軍認証鍵」だ。担当の部隊には、お前が向かうことを私から連絡しておいてやろう……。

お人好しの軍団兵 : 捕虜の拘留所だって？ それなら東の物資保管塔の中だが……見張りの交代か？

ミンフィリア : その手を離しなさい！

ビッグス : あれは、ミンフィリアさん！ それにみんなも。……よかった、無事だったんだな。

ミンフィリア : あなたたちの目的は、わたしの「力」でしょう！？ ならば、わたしだけを連れていけばいい！
ほかの者たちに、指一本触れてみなさい！ この場で舌を噛むわよ！



ウェッジ : タタルさん……。今助けるッス！

ビッグス : だけど、こうも警備が厳重では……。
……そうだな、戦うしかないか。

帝国軍警備兵 : こちら、第三分隊。どうした？
……なに？ 哨戒中の「魔導リーパー」が強奪されただと？
エオルゼアの野蛮子どもが活動しているのか。しかし、なんだって、そんな情報が今頃……。
なんだあ！？ この要塞に、味方を装って侵入しているだあ！？

ビッグス : 今だッ、行くぞ！

帝国軍警備兵 : な、何者だ！？ ……まさか、奪われた魔導リーパーってこれかあ！？
そ、総員！ 侵入者を迎撃せよ！

ミンフィリア : あなたたち……来てくれたのね！

タタル : あわわわ…！？

ウェッジ : 今助けるッス！

ウリエンジェ : 戒めを解き放つのです……共闘こそが、我らの宿命なるが故に……。

ババリモ : ◆◆◆！ 僕たちの縄をほどいてくれ！

ノコホルス・ホプロマクス : クソッ、何としても侵入者を捕らえろッ！

タタル : 負けちゃ嫌でっす…！

タタル： ◇◇◇さん！ ……すごく、すごく怖かったです！ あううう。

ミンフィリア： 助けに来てくれたのね……。もう、無茶するんだから！
でも、ありがとう！ ……囚われたのは、これで全員。少し怪我はしているけど、みんな無事よ。

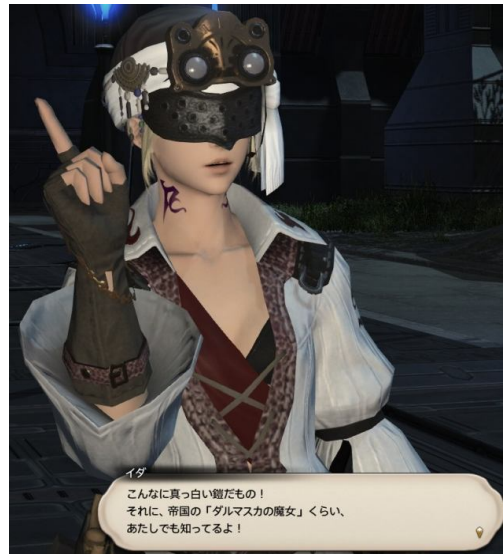
パパリモ： サンクレッドを見なかったか？ どこにも見当たらないんだ！

ウリエンジェ： さあ、ここから脱出を……。我々はまだ……鑄薔薇の筐の中にいる……。

リウピア： 侵入者にミンフィリアを奪われただと！？ いったい、何をやっているのか！ ……貴様ら、それでもガイウス閣下の軍団兵か！
早急に兵を回せ！ いいか、ここから外に出すんじゃないぞ！
……鼠か。

ヤ・シュトラ： 第XIV軍団分遣隊長、リウピア・サス・ユニウス。本当に居ただなんて。……イダの目の良さには驚かされるわ。

イダ： こんなに真っ白い鎧だもの！ それに、帝国の「**ダルマスカの魔女**」くらい、あたしでも知ってるよ！



リウピア： 貴様ら「暁の血盟」の買人たちが……。どうやってここまで入った？

ヤ・シュトラ： あの人たちが騒ぎを起こしてくれたおかげで、案外すんなりとね。

イダ： 貨物室はちょっと狭かったけどね！ あと寒い！

リウピア： 輸送魔列車に紛れ込んだのか。……役立たずの警備兵どもが！

ヤ・シュトラ： もっとも、こんな侵入方法では、単独で動くことしかできないけど……。ミンフィリアの救出は、あの人に任せるわ。
情報を集めていて辿り着いたの。「砂の家」を襲い……仲間たちを殺し……。ミンフィリアたちを拐ったのは、あなただったのね。

イダ： みんな死んじゃったんだ！ 絶対にゆるさないよ！



ヤ・シュトラ : あなたは、エオルゼアの脅威となる。……ここで沈んでもらうわ。

帝国軍警備兵 : リウィア様ッ！ ……き、貴様ら何者だ！？

ヤ・シュトラ : チッ、ここまでか……。……イダ！

帝国軍警備兵 : ここにも侵入者だ！ 追えっ！

リウィア : 閣下はどこに居られる！？

帝国軍警備兵 : 例の男と、地下格納房です！

リウィア : すぐに連絡し、状況をお伝えしろ！

帝国軍警備兵 : ハッ！

リウィア : ……何たる失態か！

帝国軍警備兵 : いたぞ、侵入者だ！ 包囲しろ！

ウェッジ : これ以上、我慢ならないッス！ タタルさんは、オイラが守ってみせるッス！！ ……ビッグス、あとのことは任せたッス！

ビッグス : 待て、ウェッジ！ やめろおお！
くっそ……！ ミンフィリアさんたちはオレが守る！ あいつらを食い止めてくれ！

Vコホルス・ホプロマクス : 総員、緊急配備につけ！ 侵入者どもを逃がすなッ！

ウリエンジェ : この魔導兵器……何か……別の力に守られているようです。

ババリモ : ◆◆◆、近くに強化装置があるはずだ。探し出して壊してくれ！

ババリモ : さすが敵拠点、魔導兵器が次々と……！

ウリエンジェ : どちらも強化装置の恩恵を受けている様子……しかし、装置はいずこに……！？

Vコホルス・オブティオ : おのれ侵入者、必ず仕留めてくれる！ この「魔導コロッセス」でなッ！

ビッグス : あれは……新型の魔導アーマーか！？

ミンフィリア : みんな、気をつけて……！

ウリエンジェ : こちらが優勢……ですが、窮鼠は恐ろしい……。

ババリモ : 鉄巨人め！ これでおしまいだ！！

帝国軍の百人隊長 : 金髪の女以外は殺しても構わん！ てえ！



ミンフィリア : ヤ・シュトラ！

ヤ・シュトラ : 待たせたわね、ミンフィリア。

イダ : ババリモ！ ミンフィリア！

ミンフィリア : イダ！

ババリモ : 遅いぞ、イダ！

イダ : えへへ、よかった無事で。

ヤ・シュトラ : さて……。

イダ : よーし！ やっちゃるか！

ババリモ : しかし、この数が相手では……。

ウェッジ : ひい、ひい、ひい、ひい……。……ひいひい……ひいひい……。

ビッグス : バッカやろう！ あれ置いて、逃げ出してきたのか！

ウェッジ : そ、そんなこと言ったって！ 取り付かれたら勝てるわけないッス！

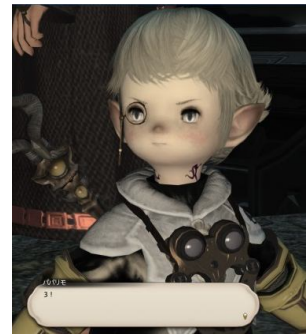
シド : 俺だ……シドだ……。聞こえ……るか……。？
5つ数えたら……そこから……飛び降りろ！ いいな！

ヤ・シュトラ : 5……。

イダ : 4っ！

ババリモ : 3！

ミンフィリア : 2っ！



ガイウス : エオルゼアの為政者たちが吠えた演説……。力の伴わぬ、空虚な言葉の数々……。
茶番を演じる弱き為政者と、それに喝采を送る愚かな民……まさに滑稽なり。
解るか「暁」よ……。必要なのは力。民を守り、導き、この地を救う真なる力だ！
蛮神を征すこの力こそ、エオルゼアを救う王者の剣よ。それを覚えておくのだな。

シド : なにッ！？
今は……！

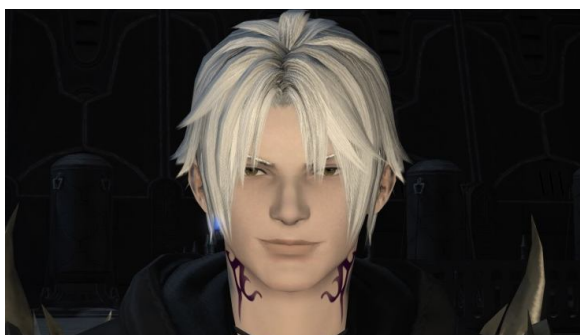
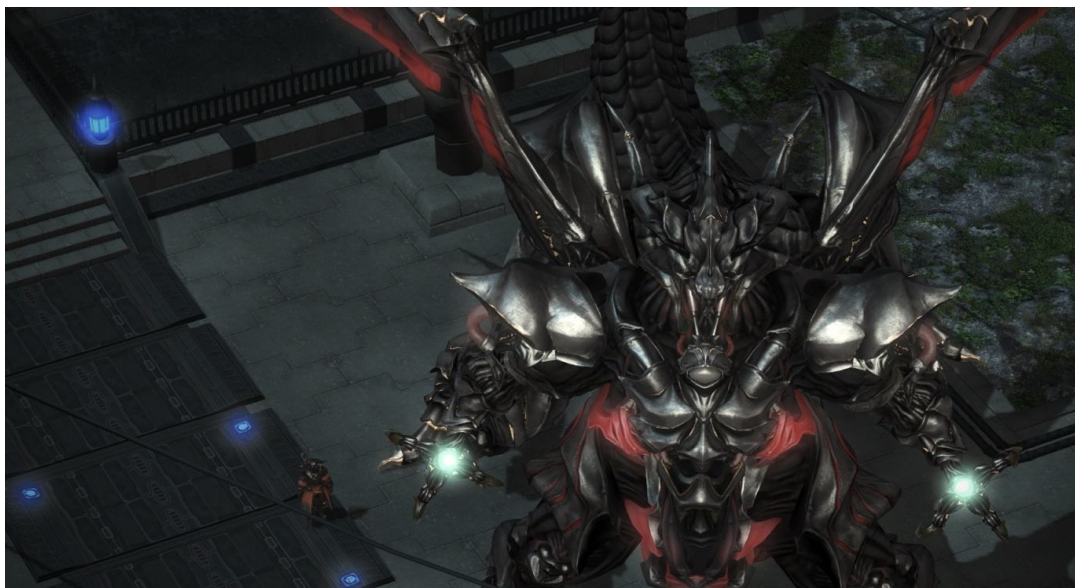
アルフィノ : 蛮神「ガルーダ」を倒した、例の兵器か！？

ミンフィリア : アルデマウェボン……完成していたのね……。

アルフィノ : アルデマ……ウェボン……。

ミンフィリア : アラミゴで発掘された、古代アラグ帝国の遺産。あらゆる蛮神を打ち払い、あらゆる国を焼き払うという、絶対の力。
帝国は、その力を携え、エオルゼア諸国に服従を誓わせる気よ！

シド : ガイウス、貴様はッ！



アルフィノ : あれは！？ 見ろ、ガイウスの横！
奴は天使い……天使い「アシエン」だ！
しかも、あの法衣……。闇の異形者と呼ばれ、アシエンたちを束ねる上級存在……。

ミンフィリア : では、あれが！ あれが、アシエン・ラハブレア！
サンクレッド！？
そんな、サンクレッド！ 彼が、アシエン・ラハブレアだったというの！？

シド : 限界だ！ 脱出するぞ！

ミンフィリア : サンクレッドオオオ！！

アシエン・ラハブレア : ハハハハハッ！ フハハハハハハハッ！

アルフィノ : サンクレッドが、アシエン・ラハブレアだったとはな……。
よりもよって、彼にアシエン関連の調査を進めさせていたのは私なのだぞ！ 気付けなかった自分が情けない！
そして、我々の情報は、奴らに筒抜けだったというわけだ。……クソッ！
帝国の切り札、アルテマウェポンは完成した。蛮神を、いとも容易くねじ伏せる力。そしてあの火力……。
あの兵器の脅威を、一刻も早く「エオルゼア同盟軍」に伝えなければならない。
落ち込んでいる場合ではないぞ！
ともあれ、皆は無事だったのだ。
敵がどんなに強大であろうとも、力を合わせて戦えばよい。「暁の血盟」には、それができるのだから。
今こそ、エオルゼア諸国へ知らせるのだ！ 蛮神「ガルーダ」討伐の報（しらせ）とともに、「暁」が蘇ったことを！
ここからの戦いは、君が頼りだ。頼んだぞ。

ミンフィリア : ……それじゃ。
行きましょう。諸国を束ねる首領たちのもとへ。

ラウバーン : エオルゼアを統治する者たちへ……か。馬鹿にしおって！

メルウィブ : それは、すでにレイナーに指示を出してある。……そうだ「黒渦団」全隊に非常招集をかけろ。
スラフィルシに、艦隊の準備を急ぐよう伝えろ。じきに、ロータノ海は荒れるぞ。……以上、通信終わり。
そちらは大丈夫なのか？

ラウバーン : エリヌ・ロアユ大闘将に任せている。「不滅隊」の指揮は問題ない。

カヌ・エ・センナ : イシュガルドから連絡はございましたか？

ラウバーン : ……いや、何の音沙汰もない。

カヌ・エ・センナ : 「双蛇党」から特使を向かわせたのですが……。そうですか……空振りに終わりましたか？

メルウィブ : この非常時に、あの**教皇**はいつまでダンマリを決める気だ！ 戦争の神ハルオーネを守護神としながら、なんとも凋落したものだ！

ナナモ・ウル・ナモ : 不在なものは致し方あるまい。我ら「エオルゼア都市軍事同盟」だけでも話を進めようぞ。
各国のグランドカンパニーの首領の皆に集まってもらったのはほかでもない。
「ガレマール帝国」の第XIV軍団長……。ガイウス・ヴァン・バサエルなる者から届けられた書簡についてじゃ。



ラウバーン : エオルゼアの……いや、世界の蛮神問題を、一気に解決する最終兵器「アルデマウェポン」が……。

カヌ・エ・センナ : 帝国に従えば、全ての蛮神を屠り、真の安寧をエオルゼアにあたえる。……逆らえば、その牙は私たちに向くことになる。

メルウィブ : 従うべきか……従わざるべきか……。

ナナモ・ウル・ナモ : これは、帝国からエオルゼア全土に向けての恐嚇じゃ。各国が結論を出す問題ではない。
都市軍事同盟から離脱した、山の都イシュガルドは除いたとしても、我らだけでも団結した答えを出さねば、
エオルゼアは再び炎に包まれるのじゃ。

ミンフィリア : ありがとう、◇◇◇。なんとお礼を言っているのか……。
……サンクレッドのことは正直驚いているわ……。でも、悩んでばかりもいられない……。
帝国を……アルデマウェポンを止めなければ、このエオルゼアに未来はないわ！ ……行きましょう、首領たちのもとへ。